

熊本の病院・臨床研修病院、新病院長の紹介

熊本市立熊本市市民病院

病院長 相良 孝昭



令和四年四月一日付けで、熊本市立熊本市市民病院長を拝命いたしました相良孝昭と申します。何卒よろしくお願い申し上げます。

私は佐賀県佐賀市出身で、昭和六十一年に熊本大学を卒業し、北川敏男教授主宰の整形外科教室に入局致しました。昭和六十二年四月熊本大学大学院医学研究科に進学し、吉永秀教授の第一病棟で基礎研究をさせて頂きました。当時の第一病棟では、炎症局所における

IL-1の産生動態の研究が行われており、基礎の教室で分子生物学の研究をしたことは、私の医学的視野を広げる意味で大変貴重な経験でした。大学院修了後、人吉総合病院を経て熊本中央病院へ異動し、脊椎外科を研鑽後、平成七年に熊本市市民病院へ異動となり、以来現在まで勤務しております。

熊本市市民病院は昭和二十一年二月に熊本市立民生病院として創設され、昭和二十四年五月に熊本市立熊本市市民病院と名称変更し、以後熊本市が運営する自治体病院として湖東の地で地域医療を担っております。

しかし熊本地震が発生し平成二十八年四月十六日の本震で、建物が甚大な被害を受けたため診療継続が不可能に

なり、入院患者全員を退去となりました。地震後一ヵ月後には大西熊本市長が市民病院の早期再建を図ることを表明され、現在の東町への移転が決定、平成三十年四月より新病院の建設工事が始まり、令和元年七月に竣工し、令和元年十月一日に許可病床三百八十八

床の病院として開院いたしました。

しかし開院してまもなく新型コロナウイルス感染症が発生し、令和二年二月に第一例目の患者を引き受けて以来、当院では令和五年三月末までで千九百人超の新規入院患者を引き受けました。そのため病床全床運用が開院以来できない状況でしたが、令和五年五月八日より同感染症の感染症法上の扱いが五類になりましたので、今後は全床運用を図っていく予定です。

施設基準については地震前の状況にほぼ回復し、令和二年四月に熊本県指定地域がん診療連携拠点病院、令和三年七月に地域医療支援病院の指定を受け、日本病院機能評価につきましても

令和四年二月に認定を受けることができました。

熊本市市民病院は、「安全で良質な医療の提供」を理念とし、チーム医療、地域連携、政策医療、人材育成、健全経営の五本を柱としております。小児・周産期医療、感染症医療等の政策的医療、救急医療、生活習慣病やがんに対する急性期医療を医療の柱とし、地域医療においては、小児・周産期医療、急性期医療、救急医療、政策医療が当院の役割と考えており、これら重点分野を推進していく所存です。

今後も引き続き診療体制や設備をさらに充実させ、地域の医療機関との連携をより一層深めることにより、安全で良質な医療を提供できるように体制の整備に努めてまいります。

肥後医育振興会の皆様には、当院へこれまでと変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしく申し上げます。